

津島市タウンミーティング（中一色 RCV）会議録

日程 令和5年7月4日（火）

午後6時～7時25分

会場 中一色町公民館

1 事前質問（要旨）

① 農業振興地域を維持するための施策について

農業で害虫駆除等、想定外の費用が発生している。農業を取り巻く変化点に対して助成金・補助金を検討していく考えはないのか。また、昨年から支部助成金が廃止された。農業組織活動を維持するため、助成金の復活を強く要望する。

市職員

カメムシ対策等、市が行う助成金は他市で事例がある。また、支部助成金は市から地元へ農家台帳の配布・改修などを依頼して地元の農業活動に助成金を支出していたが、補助金の内容・在り方について監査から指摘があり、廃止に至った。先の助成金・補助金と併せて、他市町村の事例も参考に調査検討をする。

② 企業誘致の他の施策は計画しているか

市職員

この中一色地域近辺での計画はない。

③ 有機農業を検討する考えはないのか

市職員

この地域では通常の米作りをしている方が多いが、有機農産物作りを行うのであれば、関係機関との連携等を検討する。

④ 地域計画の策定の進捗状況は

市職員

令和5年4月1日の法改正・施行により、市町村に地域計画の策定が義務付けられた。津島市では現在、台帳整理・システム更新を行っている。この作業が完了し次第、計画の基礎データとなるアンケート調査を年内から年度内頃に行うことを予定している。

⑤ 企業誘致で仕事が減った方への配慮はしているのか

市職員

企業誘致の区域を決定する前に、関係地権者に耕作者等と事前調整することを依頼している。

⑥ 南の玄関としての JR 永和駅北口の開設について

以前から北口の開設・整備の話があったが、現在の状況と、いつ頃北口ができるのか教えていただきたい。

市職員

市は平成 10 年に国鉄から土地を購入している。永和駅周辺は、南の玄関という観点の中でまちづくりを進める場所。JR の永和駅を利用すれば名鉄と比べて安く・早く名古屋まで行くことができる。市としてもこのポテンシャルの高さはよく理解しているが、永和駅の 1 日利用者数は約 2,000 人。隣にある 1 日利用者数が約 7,000 人の蟹江駅や約 6,000 人の弥富駅と比べると大きな差がある。これだけの差が今ある中で、皆さんが願っているのは駅の利便性向上だと考えている。確かに北口という観点は重要だと思うが、市としては車でのアクセス方法という観点を重要視している。現在日光側の西と東にそれぞれ堤防道路を作っており、特に日光川の西側の堤防は 防災道路 という位置付けになっている。この防災道路を作るにあたって、JR の線路を改修する計画、それと堤防道路として鉄道の下をくぐることを条件にしている。まずは道路へのアクセシビリティとしてこの防災道路を含めながら計画を進めていく。平成 28 年にこの鹿伏兎地域を企業誘致という形で指定した。令和 2 年度には三菱重工メイキエンジンが進出して、土地利用として大きく変化してきている。こういった土地利用を着実に進めながら、永和駅の利用者数の増加に向けて、投資すべき価値があるような形で駅北口改札の整備をしていきたいと考えている。繰り返しになるが、市としても土地を取得しているため、これを売るにも捨てるにもできない。これは北口の構想というものを持って進めていくための決意になる。決して北口を諦めたわけではない。この点をご期待いただきたい。アクセスと駅の利便性については、土地利用も合わせながらとなるのでご承知いただきたい。

⑦ 駅からの通勤者のための道路整備について

地域の道路は交互通行で夜間は街灯も少ないため暗い。歩道・車道の区別になる白線もあるが、途中から雑草等で通行できなくなっており、車道を通行することがある。安全・防犯対策の面から道路整備をお願いしたい。

市職員

永和駅の西側から通勤者が道路を通る場所について、西側の踏切から北上すると東名阪自動車道がある。この信号交差点までは愛知県が管理する津島蟹江線という一般県道。この県道について市は、令和 2 年度から令和 5 年度まで通勤者の利便が良くなるよう、県へ歩道整備をするように要望し続けている。夜になると暗いことについて、市では鹿伏兎町で電柱等に防犯灯を設置している。また、県は既に大きな交差点に道路照明を設置しているため、これ以上明るくすることは現状難しい。ただし歩道整備ができた際には、明るさを保つことも考えながら整備し、県にも要望していく。

⑧ 企業誘致に伴う近隣住民の雇用は増えたのか

鹿伏兎地域の誘致が進んでいるが、地元・近隣住民はどの程度採用されているのか。中一色地域でも若者の地域離れが目立つようになってきている。

市職員

市の企業誘致は、現在 16 社を誘致して、内 13 社が創業を開始している。この 13 社に対して令和 5 年 3 月に津島市民の雇用状況等を調査した結果、13 社全体の従業員 588 人の内 14%にあたる 80 人が津島市民であった。

誘致した企業について最初の雇用は限られるが、今まで創業した企業を見ていると徐々に工場増築・設備導入等の規模拡大しているところが多く、従業員の募集も徐々に行われている。実際多くの企業は、地元雇用として地元の方、地元の高校生・大学生の就職を望んでいる。市としても、今後も地元雇用が生まれていくようにサポートしていく。

⑨ 災害時の避難場所として小学校に車椅子用トイレは設置可能か

最近地震や水害被害が多発している。最低限の避難先に必要な設備を確保していただきたい。

市職員

市内の 8 小学校の体育館については改修により、車椅子の方も使用できる多目的トイレが各学校に 1 つずつ整備済みなのでそちらを利用していただきたい。また、施設の完全なバリアフリー化については、引き続きの検討課題とさせていただきたい。

⑩ 中一色の高所避難所について

中一色町には公園がない。市場・柳原地区では子どもが路上で遊んでいて危険。平常時は子どもたちの遊び場として、災害時には避難場所設備となる高台公園の設置を検討していただきたい。

市職員

中一色町に限らず市内全域における洪水の対策は市も大切と考えている。避難というと、消防や自衛隊が船やヘリコプターで家屋から住民を救助する姿を想像するかもしれない。しかし市としては先のような救助を抑制するため、台風や大雨予報等避難までに比較的時間的猶予がある場合には、市外も視野に標高の高い地域への事前避難を推奨している。ただしゲリラ豪雨などに伴う緊急的な避難等、どうしても時間的な余裕がない場合は、神島田小学校や市と避難場所として協定を提携しているあいさんテラス等を利用していただければと考えている。

⑪ 資源回収への補助金の復活について

中一色 RCV は平成 30 年 6 月に発足した。同年に市の補助金が無くなったと聞いている。資源回収等の活動に対して、何らかの助成金・補助金等を検討願いたい。

市職員

該当の助成金、再利用資源集団回収助成金の期間は、平成13年10月～平成30年3月。この助成金の目的は3つ、ごみの減量化と資源の有効活用を図ること、市民の分別の意識向上を目指すということ。結果としてごみの減量と資源化については、市民意識が十分浸透して事業の目的が達成されたとして廃止となった。今後も実施の予定はない。

⑫ 県道東側の唐臼・鹿伏兔線について

該当道路は直線で信号がないため朝夕の通勤時には、猛スピードで走る車を見かける。農作業者が困っているのを、ゾーン30等のスピード抑制をしていただきたい。また、水田へのポイ捨てが後を絶たない。予防対策はないものか。

市職員

ゾーン30は囲った区域の中の場所に対して30キロの制限をするもの。真っすぐな道路だけを制限するというのであれば、そこに30キロの規制をかけるという言い方になる。該当の場所は津島市の道路もありながら、愛西市の道路も含まれている少し入り組んだ道路になっているため、30キロ規制を希望するのであれば、警察にそのような規制の要望を市からもさせていただく。また、数字の規制だけで抑制できないということであれば、別の方法もある。道路上に凹凸を付けて車が走りにくくなる工事をする事で、車が通りやすくなり、ポイ捨てをする方が減ることも期待できる。こちらを行う場合には、地域の地権者の了承が必要になるため、望まれる場合には市都市整備課に相談をしていただきたい。

⑬ 側溝改修工事の施工進捗について

側溝改修工事で道路部分の片側だけアスファルト舗装を施工して工事を終了した。残り片側は修理が必要となっても次年度以降の工事となってしまう。

市職員

対象のU字溝を市が入れたか個人が入れたかはわからないが、場所によっては半分だけ整理を行い、もう残り半分はU字溝を入れなければならない状況であれば、U字溝を整備しながら道路の判断面を整備していくというやり方になる。市としても限られた財源の中で整備をしているところなのでご理解をいただきたい。

2 意見交換（要旨）

テーマ「2大プロジェクト！『まちづくり再生と子育て支援』」

津島市で進めているまちづくり再生・子育て支援施策の紹介・進捗状況について市長より説明し、参加者と意見交換を行った。

（1）天王祭の来場者数について

意見

来場者数25万人について市内外の内訳を教えてください。

市職員

天王祭の観光客数は、市内外に区別してその集計を行っていない。公開している人

数はあくまで天王祭に来場した方全員の人数となっている。

意見

尾張津島天王祭を中心に市の観光 PR を行っていただきたい。天王祭の開催にあたり、観光業者等には話をしているのか。

市職員

天王祭では栈敷席の他、パイプ椅子席を観光業者に売り込むことによって団体客の呼び込みを行っている。

市職員

天王川公園は指定管理者への委託を開始した。来年からは指定管理者が天王祭の観光栈敷の予約サイトを展開していくことで、より広域的に情報発信ができることが期待できる。

(2) 道路整備について

意見

国道 1 号線から近鉄の下を通過して突き当りのところで繋がっていない道路がある。その箇所工事の予定について教えていただきたい。

市職員

該当箇所の道路を繋ぐためには、JR 関西線について日光川にかかっている橋から改修を行う予定。その次が JR 関西線となり、現在愛知県が JR と協議をしているところ。この改修に合わせてようやく道路が繋がることになる。これによって永和駅へのアクセシビリティが向上することも考えられる。

(3) 事前質問⑫について

意見

道路に凹凸を付けることで車が走りにくくすることについて相談を受け付けるとのことだが、どういう方法を取れば対応していただけるのか。

市職員

設置場所を決めるためには、地権者に許可を取る必要がある。許可さえ得られれば、市が予算を確保して手続きを進めていく。まずは場所をどこにするか地域で相談をしていただきたい。

意見

9 年ほど前に警察には相談したが。

市職員

それは凹凸の基準ができる前の話になってしまう。現在はその一定の基準ができているため、その基準に基づいた設置ができる。

意見

相談に行くのでよろしくをお願いします。

(4) JR 永和駅について

意見

先に永和駅の利用者が少ないという話があったが、私は永和駅北側に車を停めることができる場所や出入りができる改札がないため近鉄富吉駅を利用している。もし永和駅の北口が整備されたら私は永和駅を利用するし、そういう人は多いと思う。改札ができれば永和駅の利用者数は増えると思うが難しいか。

市職員

JR と名鉄の1日当たりの電車本数を比べても、永和駅には地の利があるといえる。以前は土地利用の話が無く、永和駅の駅だけの話になっており、駅周辺の町をどうしていくのかというビジョンが明らかでなかった。現在は南の玄関という町から見た中の駅という部分を明確にしていく計画。決して諦めているわけではない。企業誘致と合わせながら進めていく。

以上。